

# chapter6.3 福島県相馬市松川浦にて津波堆積物の調査

東北地方太平洋沖地震（2011.3.11）時の大津波の被害と津波堆積物について、松川浦での湖底津波堆積物調査に同行した。

## 松川浦大橋及び湖上の撮影から津波被害を俯瞰する

[動画 6.12] インターネットに公開されている映像では、津波は、ほぼ橋（①）の道路直下までの高さで押し寄せ、また、砂州の上の松林をなぎ倒してゆく様子が捉えられている。松林はほとんど残っていない（②～④）また、相馬市原釜で撮影された映像では、津波が押し寄せて始めて、約8分後にさらに巨大な津波が来襲していることが読み取れる。これは、釜石沖の水圧計と捉えた二段階での津波発生を意味している。



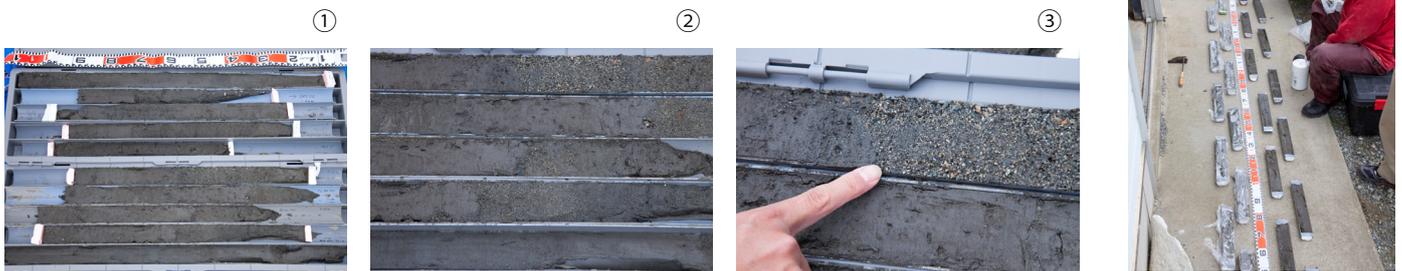
## 湖上調査 1、湖上調査 2

[動画 6.12] 東北大学後藤和久氏による津波堆積物コア採集調査に同行し、調査の意義を聞く。打ち込み式ロシア式サンプラーによる津波堆積物の採集方法について、大阪市立大学原口強氏に解説してもらう（①、②）。



## 津波堆積物の観察

[動画 6.12] 松川浦の津波堆積物（①～④）の特徴を後藤和久、原口強氏より聞く。津波堆積物は粗粒な砂質である。



## 津波の痕跡を調べる

[動画 6.13] 砂州堤防の陸側に見られる洗掘溝 (①～④)。堤防のコンクリートは破壊され、なぎ倒された防風林の木々が見える。津波来襲後、8分後の巨大津波によって破壊された。



## 津波の痕跡を調べる

[図 6.14] 原釜の相馬ポートハウスにて津波の直撃を受けたポートハウスの内部において砂の堆積の様子を観察する (①、②)。洗面所内部において、砂の堆積が、鏡の上のライトカバー上では起こっていないことが注目される。

